

# シオンの子

第 27 号

2011.10.31



小学6年 女子  
『希望』

## ありがとうの言葉を

長いよつで短い十七年  
 たくさん仲間と出逢い  
 泣いて、笑って、怒って、泣いて  
 明日にはまた笑っていて…

一日一日が「ありがとう」の言葉で  
 いっぱいになっていた  
 空っぽだった小さな心が  
 なんだかボカボカ暖かかった  
 たくさんさんの笑顔があった  
 怒ってくれてありがとう  
 私のためにありがとう  
 みんなのためにありがとう  
 みんなが居るから元気になれる  
 笑顔がいっぱいつまった胸に  
 「ありがとう」もいっぱいいつめて  
 明日へ飛び立とう

県立高校二年 女子

編集 社会福祉法人子持山福祉会 〒377-0203 群馬県渋川市吹屋 201-1  
 発行 印刷 児童養護施設 子持山学園 TEL 0279-23-1152 FAX 23-1153  
 E-mail komochiyama1952@mist.ocn.ne.jp  
 ホームページ作成中です。「子持山学園」で検索してみてください！

## “備えあれば憂いなし”

社会福祉法人子持山福祉会  
理事長 島田 卓爾

自然災害というものは、いつ襲ってくるか予想が付きません。この度の大震災・大津波・放射能三重苦の災害から半年以上経ちますがこれを誰が予測し得たか人知の及ばぬ科学の力に頼らねばならないもどかしさを感じます。

群馬という所、特に北部に位置する此処子持は自然災害の少ないところとして安全な生活に慣らされてきていますが、いまから二十四年前初秋折からの集中豪雨で、河川・道路・農地・住宅等が多大の被害を受けたことがあります。当時復旧工事は、国や県の援助を受け約六か月の後にほぼ完成し表彰も受けました。何十年か振りにたまたま受けた災害には特に物心両面での

確固とした準備があつた訳でもなく、兎に角無我夢中で事に当たった結果、不断の心構えの大切さをしみじみと感じさせられたことでした。

ひるがえって、いま世界の中心で我が日本の置かれてある立場はどうでしょう。「平和」を唱え祈り願っているだけで諸外国は「平和」をもたらしてくれるでしょうか。北方領土・竹島・尖閣諸島など日本固有の領土に対する周辺諸国の侵犯に対して現日本政府は主張もなくやらせ放題、外交交渉もせず、このままどつなつてゆくのでしょうか。見方を変えれば自然災害以上に憂慮に値する事態と思うのは考え過ぎでしょうか。

現在わが学園には二十七名の職員が、それぞれの持場に從つて、五十名の四六時中の養護保育にあたつており文字通り幼い命の保障に任じています。張り詰めた真剣さの中で油断も見落しはないだろうか。極く当り前のことだけれど「不断の心がけ」と「不測事態への対処」を覚悟しておくことが子供たちへの愛情の一端と心得て、しっかりと頑張つていって欲しいと思つていきます。

## 平凡な生活が 幸せと感じた一年

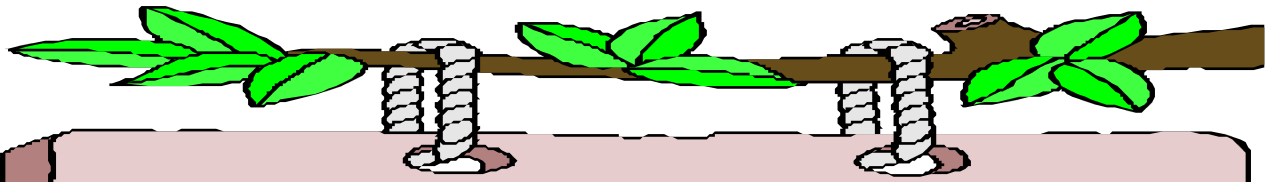
児童養護施設 子持山学園  
施設長 豊田 誠

東日本大震災が起こりました。あたりまえのことがあたりまえに行えなくなった。幸せを実感した一年でした。人々とのつながり、地域社会の大切さ、自分だけで生きていくのではなく多くの人やもの、自然環境の中で生かされている存在なのだということも強く感じました。

現在、約五十人の子ども達が子持山学園で生活しています。年間を通して様々な行事があり、支援して下さる人々がいます。感謝申し上げます。先月、長年暮らした学園から男の子が単立ちました。地域の人や来園された人達にすごく愛され印象に残る子どもでした。社会人になつてからは、受け答えもしつかりでき、笑顔や気持ちよい挨拶が身に付いている彼なら頑張つていけると思いますが、先日、彼から一通の招待状が届きました。先生方を食事に誘いたいとのこと。楽しみに待っています。小学生を中心に農業委員会ができています。担当の先生方と近くの畑を借りました。スコップや鍬で土を耕し、キュウリやスイカ、ナスなど野菜を植えました。近所のおじいさんが畑の先生です。水くれや草むしり、そして楽しい収穫とよい体験ができました。十月にはさつま芋掘りと栗拾いに招待され、大きなサツマイモと栗が沢山とれました。蛇や沢蟹もいて、子ども達は大喜びでした。

七月一日。新たに十五名の評議員さんが決まりました。様々な分野で活躍なさつており、高所大所より学園に関する様々な意見を述べて頂けるものと期待しております。学園にとつて心強い味方です。

子ども達は、人との関係性を築くのが苦手です。生きづらい現代社会において、日々の生活を大事にし、生活の一つ一つを丁寧にすることが必要と考えます。生活そのものに情が通うことで、生きていく上での根っこができるのだと思います。子ども達の成長に関わり、共感できる幸せこそ、学園での働く喜びです。今日も笑顔で元気な挨拶が聞こえてきます。



子どもの養育を考える

## 第9回 児童養護施設の役割

### 児童養護施設 子持山学園

児童指導員 吉田 秀樹

「養育」という言葉を、文字通り子どもを養い育てることと捉え、家事をして、子どもたちの身の回りのことをするだけと考えると、そんなに難しいことではない。

しかし現在では、ネグレクト(養育放棄)という言葉があるように、それさえ出来ない親がいる。愛情を持って子どもを育てることのできない親が増えているのが現状である。

どこかの博物館で、山が噴火し子どもを守ろうとしてその子に覆いかぶさりながら焼け

死んでしまった親子の写真を見たことがあるが、それが本来の親の姿であると思う。食べるものがない時には、自分の食事さえも子どもに与えようとするのが親ではないだろうか。子どもを置き去りにして、遊びに行ってしまう、自分のことしか考えられない、「大人になりきれない親」が増えてきているような気がする。そんな境遇にあった子どもたちに愛情を注ぎながら一緒に生活し、本来親のあるべき姿を見せていくことが我々の役目でもある。



また最近では、医学やその他の専門的な学問が発達し、昔であれば、やんちゃな子、おとなしい子で済ませられていた子どもたちが、いろいろな病気と診断されるようになった。虐待を受け心に傷を負った子ども、発達障害を持った子ども。

そんな子どもたちを治療しながら養育する。今の施設の「養育」は、「療育」も必要である。

約七年前に施設に心理職を配置できるようになったのも、そういう子どもたちが増え、単なる養育では子どもたちに教える育てることができなくなってきたことの結果である。心理士と協働し心理療法などを用いたり、通院をして医師から受けたアドバイスなどを用いたりして、子どもたちと一緒に生活しながら専門的な関わり育てていくことで療育し、少しでも社会で適応できるようにすることも我々の使命でもある。

我々は日々、施設の子どもたちに何が出来るのか、何をすべきなのかを考えていかなければいけない。





六時、私が眠たい目をこすりめぐみホームのドアを開けるとすでに朝食を終えお弁当の準備をしている高校二年のT君が「おはようございます」とトーンの低い声で挨拶をする。六時二十分、一番に起きて洗面を済まし玄関とテラスの掃除を始める小学一年のM君と小学六年のT君。次に起きるのが中学一年のR君。自室の掃除機をかけるのが彼の日課。ようやく中学三年のY君と高校一年のN君が起きて自室の掃除を始める。そして朝食の用意ができた頃、やつと中学三年のA君と高校二年のE君が起きてきて、みんなですらって朝食となる。そして必ずA君とM君が朝食を食べながら喧嘩になる。これがめぐみホームの朝の様子。

夕方、一番先にM君が疲れた声で「ただいま」と帰ってくる。次に元気よくT君が「ただいまあつ」と帰ってくる。そして部活を引退したA君Y君。高校生のT君E君N君。最後に部活を終えてR君が帰ってくる。そして夜も必ずA君とM君が喧嘩を始める。でも私は知っています。本当はA君がとってもM君のことを好きなことを。でも思春期真っ只中!!素直に表現できないんだよね。何気ない日常でも彼らにとっては毎日が不安や期待で溢れている。ほんの少しでも彼らの役に立つことができればなと思いい日々を送っています。

保育士 山田 美穂



朝、窓を開けると庭に生えている金木犀の香りがそっと入ってきて、涼しい秋を迎えました。

シオンホームは新築され、今年の三月から新しいメンバーでスタートしました。シオンホームとは、より家庭的なケアを目指して学園の敷地内に作られたグループホームです。一軒家に六名の子どもたちと職員が生活をしています。一般家庭と同じように、朝は子どもを起こして学校へ行かせ、子どもが学校から帰って来たら夕食を作り、子どもと一緒に入浴をしたりテレビを見たり、にぎやかな毎日を送っています。現在、シオンホームのメンバーは子ども五名、保育士二名、指導員一名です。



夏にはホーム旅行としてシオンのみんなまで新潟の海へ出掛けてきました。天候に恵まれ、海水浴やスイカ割りをするなど楽しい思い出ができました。

シオンホームのみんなと生活を始めてから半年が経ち、子どもたちは出来ることが増えて、以前よりも自分を表現するようになりましたが、同時に表現の仕方や言葉遣い、挨拶等、子どもの自立に向けて直していくべき課題が出てきました。子どもにどのように伝えていくか悩むことが多いですが、子どもが良いことをしたら沢山誉めて、いつも見守っているよという姿勢で子どもたちと関わっていきたいと思っています。子どもの笑顔は元気の源です。

保育士 五十嵐 絵美

# 座

星たち～



木々も色付き秋の訪れが感じられる今日この頃。わかばホームの子どもたちもいくつかの季節をこえて、よりたくましく成長しています。わかばホームは現在、小学校四年生から高校一年生までの八人の男の子が日々悩み笑いながらも元気に生活しています。今までいた先輩メンバーの子どもたちも卒園などを迎え、去年やって来たメンバーを含め、随分と顔ぶれが変わりましたが、相変わらずマイペースで穏やかな優しい雰囲気の家です。全員が男の子で多感な時期ゆえに、難しい年頃で私たち職員もどう関わり、これから社会に旅立つ子どもたちを自立に向けて育てていくかとても日々も悩みます。私たちの関わりは、良くも悪くも大きな影響を与えます。それを考えると私自身も責任ある行動と、子どもたちの心理的ケアを重視しつつも、生活に必要なスキルを身に付けることが出来るように子どもたちと一緒に成長していく大切さを感じます。子どもたちの成長は日々関わっていると感じることに流されて気付かず過ぎてしまうこともあります。それゆえ、子どもたちの授業参観をはじめ、運動会や持久走大会、コーラス大会など学校行事に参加すると普段みせない一生懸命な姿に感動します。素敵な人生になることを心から願います。

保育士 大澤 好美



『きもち』を言葉にすること  
 「こころ」は体を通して、行動や言葉になります。私の仕事はいわば、行動や言葉から子どもの心を感じ、ひもといていくような作業にもなります。近年は、「きもち」を聞いても「わからない」と答える子どもが多くなります。私たち大人も、自分が想像もしていない事に遭遇したりすると混乱し、自分の気持ちやうまく表現できない、自分の気持ちが分からない事もよくありますが、子どもたちはなおさらです。子どもは自分が驚いたり、衝撃を受けたり、怒ったり、悲しかったりという心の動揺が、「かなしい」「なか」「さみしい」などが、よくわかりません。故に、行動や言葉も混乱し、理解しがたいものになることもあります。



心理療法士 海野 千鶴

子どもと対話をしていると、どんな想いをしたか、どんな感じがしたか、を聞くとうまく話せない事がたくさんあります。しかし、子どもの感じた想いにぴったりくるような言葉や、表現と一緒に探し、「きもち」が言えたり、表現できたりすると、不思議なところは落ち着き、子どもの行動や言葉も変わってきます。日本は今、混乱の中にあると言っても過言ではありません。大人でも混乱するような状況の中で、子どもたちに与える影響は計り知れませんが、子どもが「きもち」が言えること、それをすることで安心でき、落ち着けるように、子どもたちを支援していきたいと思えます。

# 活動報告

平成二三年  
5月～9月

- ・東日本大震災を考える日（園内活動）
- ・群養協ドッチボール大会
- ・浜川教会ピクニック
- ・エクレールお菓子放浪記試写会
- ・幼稚園親子旅行
- ・ザスパ草津観戦招待
- ・浜川教会花の日礼拝
- ・子持山登山、ピクニック
- ・ポリシヨイサーカス招待
- ・J.R東労組ボーリング大会招待
- ・ラジオ体操
- ・夏休みホーム旅行
- ・ソフトボール練習会
- ・農業体験（篠原ボラの指導）
- ・クッキー作り教室、カプトムシ採り
- ・浜川教会キャンプ
- ・「ふわふわフェスティバルinグリーン ドーム前橋」招待
- ・自由工作教室
- ・お盆に帰省できない子ども外出
- ・社会福祉法人春日園盆踊りに参加
- ・群養協ソフトボール大会
- ・群養協調理実習
- ・園内にて「納涼祭」
- ・浜川鯉沢地区夏季交流会
- ・浜川吹屋地区お祭り
- ・夏休みお泊り保育
- ・学園内一斉清掃
- ・各校運動会、地域運動会
- ・紙ひこつき教室（かない苑加藤さん）
- ・教会子ども集い
- ・プロバスケ観戦招待（10/2）
- ・全日本プロレス招待（水上10/8）
- ・J.R旅のプレゼント（10/15）

その他、多数の招待や寄贈等を賜っています。



ドッチボール大会



お菓子作り教室



海水浴!!



JR旅のプレゼント

JRボーリング



へそ祭り



全日本プロレス浜選手と!!



子持山登山



楽しかった納涼祭



ピノ村島田先生の作品を鑑賞



ポリシヨイ

## 学園を支えてくれる『ひと』

前回に引き続き、今年度も七月から学習ボランティアとして子持山学園の子どもたちと交流を持つことができたことを本当にうれしく思います。そして、毎回私たちを温かく迎えてくれる先生方や子ども達には感謝の思いです。

今回も、学習ボランティアを始めて四ヶ月が経とうとしています。前回同様、お互いに探り探りの会話からコミュニケーションが始まりましたが、徐々に打ち解け和気あいあいとした雰囲気です。学習ボランティアを行うことができていると思います。一時間という短い時間ですが、限られた時間の中でお互いに交流を深めていきたいです。

子持山学園の子ども達は、とても意欲的に学習に取り組んでいます。いつも時間ぎりぎりまで勉強をしている姿は印象的です。これからも、子どもたちが学習への意欲を更に高められるようにサポートをしていけたら幸いです。

私たちも不慣れなため、至らないことがありますが、週一回の学習ボランティアの時間が子供たちにとって有意義なものとなるよう努力していきたいと思えます。これからも先生方のお力を借りながら、子どもたちと交流を持っていきたいと思えますので、よろしくお願いたします。

群馬県青年赤十字奉仕団  
社会福祉班 都丸希美



「何度も注意しているのに…」  
 「ついつい、大声で怒ってしまう」  
 「ちゃんと…いい子に…と言っているのに…」  
 「イライラして叩いてしまった」

子育てしていたら、誰でも経験のあることではないでしょうか。頭でわかっているつもりなのに、つい…。感情を押し付けることなく、子どもをしつけることができたら、親も子どもも笑顔が増えるはず。

児童養護施設でも同様、保育士も人間であり、イライラしたり、怒りたくなることもあります。

「社会の一員として羽ばたくことが出来るように、善悪の区別が出来るように、大人自身が適切に感情のコントロールをするにはどうしたらいいか…」

こうした疑問に的確なヒントを与えてくれたのが、「神戸少年の町版コモセンクス・ペアレンティング」(CSP)でした。

CSPトレーニングマニュアルによると

「…親が置かれている(追い詰められている)状況への理解を示しながら、暴力以外の方法を用いたしつけのスキルを教えることにより、最終的には暴力以外の方法で子どもをしつけられるという自信をもってもらえるように導くプログラムです」。

## コモセンクス ペアレンティング



モジュール名	ゴール
1. 自分や周りのコミュニケーション(行動の観察と表現)	子どもの行動を無意識に言葉を使わずに、具体的に表現する方法を身につける。
2. 悪い言葉・悪い結果(罰一罰)	行動の結果(結果「悪い結果」)に注目し、子どもの悪い行動を罰せず、子どもの悪い行動を減らす方法を身につける。
3. 効果的な褒め方	効果的に褒める方法を身につける。
4. 公平な罰則	罰らって、子どもに受けてきた罰則の方法を身につける。
5. 問題行動を直す罰則	子どもの問題行動に介入する方法を身につける。
6. 褒め言葉でコントロールする罰則	子どもの問題行動によって怒りしめ、泣き叫んだり、ずんずんといった子どもの感情が高まる場面での効果的な方法を身につける。
7. 褒め言葉(ヒント)のコントロール(約束)	褒め言葉をコントロールし、褒め言葉を維持する方法を身につける。
8. 子どもの褒め言葉の維持	褒め言葉への期待を管理しつつ、褒め言葉の維持(認知の歪み)の修正を教える。
9. 問題解決法	スタッフの問題解決方法から、具体的な問題解決の方法を身につける。

神戸少年の町版CSPのモジュールとゴール  
トレーニング・マニュアルより

子持山学園では、園内職員研修としてCSPの勉強を続けています。何度も注意しても同じ失敗を繰り返してしまいう子どもに、前もって対処法を練習させることが効果があることがわかりました。

また、「よくできたね!」「えらいよ」などといまいでではなく、「〜ができたんだね」と具体的に表現して誉めること、よい行動には「良かった体験」、悪い行動には「しまった体験」をさせることが有効、子どもも大人も、落ち着いて感情をコントロールできることなど、効果的な子育てのヒントを沢山得ることが出来ました。大人も子どもも同様に、「前もって練習」しておくことが大切です。沢山練習して、笑顔あふれる毎日を目指していきたくです。(長島)



神戸少年の町版コモセンクスペアレンティングトレーナー養成講座に当園職員が二名受講しました。(児童指導員 吉田秀樹、保育士 五十嵐絵美)

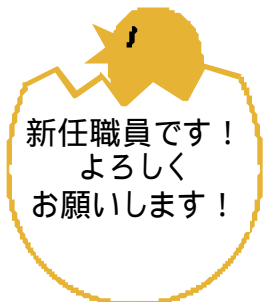
現在、当園では、主任指導員 長島英之と合わせ、二名がトレーナー資格を有しています。子どもたちへの適切な支援を追求していくための技術として、今、大変注目されています。園内研修会等を通じて、他の職員にも還元していきたいと思えます。



(左) 阿部野々香 保育士 (右) 森田大介 保育士

出身地は?  
 (森) 埼玉県上尾市 (阿) 洪川市  
 人生で一番感動したことは?  
 (森) 妹の誕生 (阿) 甥っ子の誕生  
 座右の銘は?  
 (森) 勇往邁進 (阿) プラス思考  
 趣味は?  
 (森) バスケ  
 (阿) スポーツをすること  
 社会人になつた感想  
 (森) 大変なことも多いですが、頑張っていきたいと思えます  
 (阿) 色々大変だなあと感じます  
 子どもの頃の夢は?  
 (森) ジェットマン(戦隊もの)  
 (阿) 保育士

## 一言インタビュー



森田 大介(浅田ホーム担当)  
 阿部野々香(ひかりホーム担当)

### お心遣いに感謝致します

(11・05) (11・09) 敬称略・順不同

#### 寄付金

上野あい、MEAT星野、山口道子、大嶺真勝、音藤医院、飯塚寛巳、須藤いづみ、蛭川かづ子、日本善行会群馬県北毛支部、飯島克二、赤城地区更生保護女性会、石田健次・よし江、木村三都子、中村光孝、特定非営利法人エキスパートチャリティアンソニシオン

他多数の各位

#### 寄贈物品

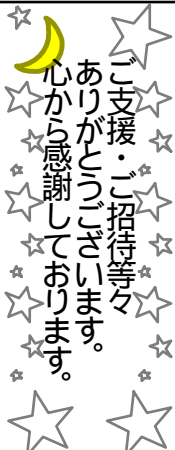
伊能松三、門司一徹、藤井正雄、佐藤富美枝、鹿島エレクトロ産業㈱、中村光孝、本多正平、狩野玲子、町田勝次、梅澤真紀、中澤達雄、武藤孝夫、柳井巧子、金谷昂平、横尾円、丹羽梨穂、塩谷博、㈱丸昌、㈱ユチユアンナ、坂本功、㈱ニトリ、渋川青翠高校、アベックス㈱、中野順夫、日本善行会群馬県北毛支部、㈱ルミカ、篠原徹、サンヨー倉庫㈱

他多数の各位

#### ボランティア

児童交流 須藤いづみ、杉本日和、加藤信夫、都筑徹  
ベビーマッサージ 林 弘子  
書道 山口道子、大塚廣末  
絵画教室 ビノキオ絵画教室  
学習

・群馬県青年赤十字奉仕団(五十嵐美奈、若井勇樹、鈴木操士、早川怜、穂刈優人、都丸希美、森岡翔太、原澤彰、金子彩乃)  
・群馬大学生(早川愛美)  
・ピアノ 後藤玲子



県共同募金会様「NHK歳末たすけあい」上毛新聞様「愛の募金」  
普通自動車免許を取得する2名の高校生が一人当たり二十万円の支援(配分)を受ける予定です。県民の皆様のご支援に感謝します。

ご支援・ご招待等々  
ありがとうございます。

心から感謝しております。

(上記続き)

エキスパートチャリティアンソニシオン様  
エキスパートグループの皆さまより一百万円の寄付を賜りました。「車両整備事業」の自己資金として充当させて頂きました。  
「施設で暮らす子どもたちのことを身近に感じ、児童養護に社会の光が注がれるきっかけに」との温かいお言葉を頂戴し、平成十八年度から施設整備等の支援を賜っています。また、同グループの社員さんにボランティアで来園して頂いたり、旅行の際に立ち寄っていただいたりと関心を寄せてもらっています。

アベックス様  
高級寝具(掛け敷き布団、枕、毛布、敷きパッド、湯たんぽ等々)約百八十万円分の品々を賜りました。  
全日本プロレス様  
水上のイベント招待。試合前に浜荒大選手が当園に遊びに来てくれて交流、リング上の勇ましい姿に大興奮!!

JR東労組高崎地方本部様  
「旅のプレゼント」「ボリング大会」等々。  
東日本大震災の被災地への慰問に、当園の高校一年生男子が同行させていただきました。被災者との触れ合いに喜びが多かったです。貴重な機会を与えていただきました。  
㈱ユチユアンナ様  
沢山の靴下の寄贈を賜りました。  
篠原徹様  
年間を通して農業体験、いい汗かきました!!

日本善行会群馬県北毛支部様  
高額の寄付を賜りました。  
中津渡様  
デジカメ、野菜、文具などを賜りました。いつも子どもたちのことを気にかけて下さいます。  
丸昌様  
七五三の晴れ着衣装を沢山賜りました。

お米、洋服、野菜、果物、子どもとの触れ合い、励まし、寄付等々、大勢の皆さまの温かな善意の上に私たちの生活が成り立っております。今後とも宜しくお願い申し上げます。

### 掲示板

職員退職、新任職員就任のお知らせ  
平成二十三年九月より加藤直(非常勤スタッフ)が採用となりました。今後ともご指導の程宜しく願致します。

車両整備事業の完了  
当園のワゴン型車両が経年劣化が激しく、新たに「トヨタハイエースグラッドキャビン」を購入しました。



今までのバンタイプと違い、十名がゆったりと乗れ、荷物も十分に積むことができ、さらに普通免許で運転可能です。各チームのお出かけ、行事参加、さらには部活動の送迎など地域への還元も視野に幅広く使用します。

エキスパートグループ様より多額の寄付を賜り購入することができました。心から感謝致します。

・持山学園 苦情解決制度 担当者紹介  
苦情解決責任者『豊田 誠(施設長)』  
苦情解決担当者『長島英之(主任指導員)』  
第三者委員 『埴田昭三』(元棲岩病院 事務総長)  
第三者委員 『生方貴美江』(元旧子持村 民生課長)

苦情解決報告 計件(平成二十三年四月九月)八月  
内容「子ども同士のトラブル」  
結果「担当指導員より、人の嫌がることはしないことをホームの子ども全員に指導」  
八月  
内容「子どもにとって不愉快な職員の話」  
結果「苦情解決担当者立ち会いのもと、職員と子どもが面談、職員より謝罪、お互いに言動には気を付けることを確認。」

### 北極星

先日、ホームに戻るときに、年少組のTが夜空を見上げて、「みて!!おつきいつき!!」と手を引っ張り、教えてくれました。「そうだね、おつきいね」



「そういえば最近、ゆっくり空も見上げてないな」。生活の中で、子どもたちからはいつも色んな要求が飛び交います。子どもだからわがままや甘えがあつて当たり前、受け止めるのが私の仕事。頭では分かっているけど、疲れていたり、たのしみません。子どもたちも学校ではテストや部活、最近では夜遅くまで塾へ通う子どももいます。本当に毎日、息つく暇なく過ごしているのに、日々の生活に追われ、余裕がなくなっていたのは大人の私だったと気付かされた出来事でした。色々なことに興味津々で、感受性が豊かなところを一緒に楽しみながら成長していきたいと思いました。

(柳井)